

JSOG Newsletter

Reason for your choice

No.10
January
2012

わたしたちの医療は“新しい生命”を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

公益社団法人 日本産科婦人科学会
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

シリーズ 産婦人科サブスペシャリティへの道

若手医師に聞く 01 生殖内分泌編

第一線でサブスペシャリティ取得を目指して邁進する若手医師を、各分野で特集します。第1回「生殖内分泌編」は、東北大学産婦人科の志賀尚美先生です。



はじめに

私が医師になって9年がたちましたが、本当にあっという間でした。3年前に専門医、1年前に博士号を取得し、やっと自分の進みたい道を歩み始めたところです。

私の毎日

現在私は東北大学病院に勤務しており、月曜日から金曜日までのリプロダクション外来と週1回の内分泌前中にリプロダクション外来を行い、午後は採卵術などの手術を行います。また内分泌外来は火曜日の午後開設しており、思春期の月経異常、性分化異常、性同一性障害などの管理を主な対象としています。私はどちらの分野も研修中で、まだサブスペシャリティと胸を張って言えるレベルではありませんが、早く一人前になりたいと思いつつ日々勉強しています。

また、私生活では2年前に結婚し仕事と家庭の両立もやっと板についてきたかな、と自負しております。

生殖内分泌のサブスペシャリティを目指したきっかけ

私は国立病院機構仙台医療センターで初期研修医として医師のスタートを切りました。もともと自分自身が月経困難症で産婦人科に通院していたこともあり産婦人科志望でしたが、幅広く研修したかったので直接入局せずローテート研修をしました。2年間の研修の後、産婦人科医になること



外来診療風景 (カウンセリング室にて)

テラーメイド的な要素が強いことだと感じていました。同じ女性でも一人一人異なる背景や疾患を抱え、希望も様々で、その希望も人生の時期や状況で異なってきます。それらを総合的に考え、テラーメイドで治療をしていくのが他の分野にはない魅力だと思います。

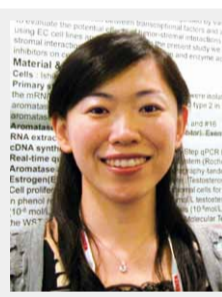
医学生、研修医の先生方へのメッセージ

若い先生方は日々の診療に忙しく、将来自分がどのような医師になりたいか、考える余裕もないかもしれません。しかし、自分が一生をかけて深めていきたいと思える分野があると、日常診療よりもおもしろいものになると思います。また一人一人が自分のサブスペシャリティを少しずつ深めていくと日本の産婦人科全体として大きな力になると思います。

3・11の大震災の際、被災地にいた一人として全国の産婦人科の先生方の暖かいご支援に勇気づけられ、日本の産婦人科医の底力を肌で感じました。若い先生方も自分の方向性を見つめながら、日本の産婦人科医療をさらに盛り上げていくように一緒に頑張っていきたいと思います。

プロフィール

志賀 尚美
東北大学病院産婦人科勤務
卒後9年目
趣味・旅行
麻酔科医の夫と二人暮らし



若手医師交流プログラム2011 米国産科婦人科学会に参加して

2011年、日本産科婦人科学会 (JSOG) の海外研修派遣支援により、Washington, D.C.にて開催された、ACOG (American College of Obstetricians and Gynecologists) の Annual Clinical Meeting (ACM) に参加させていただきました。



with the Experts
に参加。各テーブルで異なるテーマについて、Expertを囲んでLunchをとりつつ議論するといったものでした。この日の夜はドレスアップし

バラエティに富んだ濃密なスケジュール

4・29 ワシントン到着。昼過ぎにホテルにチェックインし、早速ワシントンを一周するバスツアーに繰り出しました。
4・30 Welcome Dinnerに参加。全米各Districtから選ばれた若手医師が一堂に会しての食事会でした。
5・1 朝6時30分からresident全員参加のBreakfast Seminarにて産婦人科医としていかにモチベーションを保ちながら仕事を続けていくかを大量の朝食とともに学びました。引き続きSeminarが1日中続きましたが、内容はバラエティに富み、これらは事前選択、登録制のために、日本メンバーのなかでもスケジュールはほとんどバラバラです。夜はWelcome Receptionに参加。スピーチ等はなく生バンドが演奏する中、挨拶を交わしながら時々踊るといった感じで日本とはずいぶん雰囲気が違いました。最初はダンスに戸惑いましたが、多くのresidentたちと会話もでき、満喫しました。

5・2 この日も6時30分から朝食をとりつつ妊婦に対するDomestic Violenceについての講義。その後映像を使った派手なOpening Ceremoniesに出席し、引き続きPresident's Programで各分野の第一人者の先生によるわかりやすく面白い講義を聴きました。昼は日本のランチョンにあたるBrown Bag Seminarに出席。

午後からはACOG本部の見学をさせていただきました。広くてきれいなオフィスに、産婦人科の昔の診療器具等の展示室や図書室もあり、素晴らしい環境でした。
5・3 午前中はStump and Professorsという、大人気の講義でした。全米から選ばれた4人の教授が壇上に座り、Junior Fellowが提示した症例に対し随所で質問をしながら最終的に診断をつけていくというものです。症例もさることながら、ユーモアいっぱいの教授陣で会場は大いに盛り上がりました。昼はLunchに出席。その後President's Dinner Partyに招待されました。ダンスと会話で盛り上がりました。
5・4 午前に、New Fellowを承認する荘厳な儀式に出席。学会は午前中で終了し、午後は観光をして、皆で夕食にかけました。
5・5 帰途につき、翌6日に無事帰国しました。

総括

今回のACOG派遣に参加させていただき、必要なものは何であつたかと考えると、まずは体力、そして英語力、社交性、好奇心、積極性であったと痛感されます。疾風怒濤のような8日間を満喫し、メンバー全員が、持てる能力のすべてを傾けて交流に取り組みました。そうして花を踏んでは同じく惜しみ、灯を背けてはともに親しんだWashingtonの日々を、これからも決して忘れることはありません。



最後に今回の学会参加にあたりご尽力いただいたJSOGACOGの諸先生方、助成をいただいた産婦人科医育成奨学金の皆様、このような機会を与えてくださいましたこと心から感謝いたします。ありがとうございました。

参加者の声

初期研修医として参加させて頂きました。自分で考え、手を動かすことの多い参加型の会であり、最後まで楽しみながら学ぶことができました。

婦人科腫瘍の病理診断や画像診断、超音波や内視鏡などの実技や、更に今回はアドバンスコースとして顕微鏡体験など、普段の研修ではそうそうできないものもあり、大変興味深かったです。

印象的だったのが、若手企画です。男女にわかれそれぞれ同性、同世代ならではの悩みや質問を聞いていただいたり、スモールグループにわかれてディスカッションしたり、と、実際産婦人科医がどのような生活を送っているか、イメージをつけるきっかけになりました。実際、結婚や出産など、女性として不安に思うこともありましたが、公私共に充実して過ごされている先輩方を見て、勇気づけられました。

夜の宴会では他病院で研修中の同期と情報交換できることや、それぞれの分野で活躍の先生方と、全国各地の銘酒を酌み交わしながら語らえるというのも醍醐味のひとつで、とにかくあっという間に過ぎた1泊2日でした。産婦人科に進むことを決めているいないにかかわらず、この2日間の経験は大変有意義なものだと思います。このサマースクールを通して仲良くなった同期達とは今でも連絡をとりあっています。いつか学会などで再会できる日を楽しみに今後の研修とその後の長い医師生活と邁進して行こうと思います。いつかは産婦人科若手医師として、さらには上級医として、このサマースクールに参加することが出来ればと考えています。

JA北海道厚生連 帯広厚生病院 初期研修医2年目 松宮 寛子

6月上旬、産婦人科サマースクールが美ヶ原で開催されることを知りました。まだ臨床実習で産婦人科をまわっていない私には敷居が高い...と心配でしたが、講師の先生からの「行っておいで！」の一言で真夏の松本に。

1日目は婦人科病理・画像、内視鏡、産科エコーの講演と実技。学生グループのメンバーと共に、3Dエコーで撮った模型赤ちゃんの可愛い顔自慢をしまい、縫合練習を応援しあい、難しい病理・画像に少しでもアプローチすべく意見を出し合い...。アドバンスコースでは、5年生にも関わらずマウス精子を用いたICSIを体験させていただき、興奮、興奮の連続でした。グループの学生とは全員初対面でしたが、この後に行われた懇親会や部屋では一睡もせずに話が盛り上がるほど仲良くなりました。

その道の最先端で活躍する先生方やモチベーションの高い学生や研修医の先生方と沢山出会うことができました。学問的な話も、進路の話も、その他日常生活の話も、大学の垣根を越えて様々なお話ができる産婦人科の雰囲気、また強い魅力を感じました。

2日目は若手の先生方・研修医の先生方・学生で、働く場としての「産婦人科」についてディスカッション。全ての先生から「熱い協力体制」について聞くことができました。医者人生も子育てもプライベートも楽しく両立・生活していこうという先生方の話を直接お聞きし、私も将来設計をより具体的に考えることができるようになりました。

充実の2日間を過ごし、当初抱いていた心配など何ひとつ要らなかつたことが分かりました。産婦人科の臨床実習の時や初期研修で色々な科をまわる時、更にその先も、ここで得た経験が私に色々なヒントをくれると思います。

秋田大学 5年 三浦 志織



第5回サマースクール報告

日本産科婦人科学会主催のサマースクールが2011年8月6～7日に長野県松本市のホテル翔峰で行われました。今年で5回目となりますが全国各地から初期・後期研修医235名、医学部生74名の計309名が集まりました。

参加者が放つ熱気の中、齋藤滋教授（若手育成委員会委員長）による挨拶、オリエンテーションで幕が開き、一日目は「東日本大震災に産婦人科医はどのような対応したか」と題した特別企画、さらに、婦人科内視鏡、婦人科腫瘍病理診断、産科超音波検査法に関する解説講演と実習が行われました。内視鏡の実習では、バーチャルシステムで実際の内視鏡手術を体験し、超音波実習では幹事や委員の先生方によるボランティアを被験者として実際の超音波検査を行ったり、3D超音波を体験しました。婦人科腫瘍病理診断では症例形式の出題を各グループで考え病理診断を導き出しました。3分野の講義・実習の後は盛大な懇親会が行われ、今年は、日本産科婦人科学会員による楽団（NS

（）の演奏も披露されました。懇親会の後もアドバンスコースや明け方までの情報交換が行われていました。

2日目の朝に全体写真を撮影したあとに、若手医師による企画で産婦人科の魅力などについて自由に討論する場が提供されました。その後最新の産婦人科研究の紹介があり、宮城悦子先生による「産婦人科の未来をともし描こう」という夢のある講演で感動的な幕を閉じました。来年は盛岡市で開催されることになりましたが、今年以上の企画を準備中ですので、ぜひ参加してください。

開催報告

第63回日本産科婦人科学会学術講演会

会期：2011年8月29日（月）～31日（水）
会場：大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

初の夏場・平日開催

8月29日から31日までの3日間に近畿大学 星合呉会長のもと、大阪国際会議場ならびにリーガロイヤルホテル大阪にて第63回日本産科婦人科学会学術講演会が開催されました。

過去の学術講演会の歴史上初めての夏場・平日開催にもかかわらず参加者は4800名を超えました。

2012年4月13日（金）～15日（日）の3日間、神戸ポートピアホテルおよび神戸国際展示場にて第64回日本産科婦人科学会学術講演会を開催します。

スロガンは、「夢いだき集え若人」です。若手の育成に力を注いできた平松祐司会長の熱い気持ちが込められています。全国から登録いただいた一般演題は1500題、国内外からのInternational Sessionへも100題の応募がありました。

ここで今回のプログラムの一部を紹介いたします。

周産期、腫瘍、生殖、女性のヘルスケアの各分野における専門家による教育講演を始め、生涯研修プログラムでは日常の産婦人科臨床における様々な問題点について、ワークショップ、クニニカルレクチャーを通して

また、3月11日に未曾有の大震災が東日本を襲い、本学会会員を含む多くの尊い命が奪われましたが、大変な状況の中で被災地からも数多くの会員の方々にご参加頂きました。

学術講演会前日（8月28日）に開催された市民公開講座「東日本大震災に負けない！全国産婦人科医の連携」では、参加された方々から「報道では解らない実

際の大震災医療の現状を初めて実感した」との声を頂きました。

年神戸市で開催されます第64回学術講演会にバトンをお渡し致します。

また、3月11日に未曾有の大震災が東日本を襲い、本学会会員を含む多くの尊い命が奪われましたが、大変な状況の中で被災地からも数多くの会員の方々にご参加頂きました。

学術講演会前日（8月28日）に開催された市民公開講座「東日本大震災に負けない！全国産婦人科医の連携」では、参加された方々から「報道では解らない実

特別企画として、国際産科婦人科連合（FIGO）のPresidentをはじめ4名の役員が来日しFIGO forumを開催します。更に国際支援をテーマにワークショップをFIGOやICACに加えアフリカやアジアの国から医師、助産師を招いて母子保健を中心にした現状や日本の役割について議論が行われます。また、会長特別企画として「東日本大震災から一年：現状と提言」と題して、震災後一年が経過した現状と今後に生かす提言をワークショップ形



夢いだき集え若人

平松祐司会長の書「夢いだき集え若人」

Welcome to 第64回日産婦学術講演会

会期：2012年4月13日（金）～15日（日） 会場：神戸ポートピアホテル、神戸国際展示場

特別企画として、国際産科婦人科連合（FIGO）の役員が来日しFIGO forumを開催します。更に国際支援をテーマにワークショップをFIGOやICACに加えアフリカやアジアの国から医師、助産師を招いて母子保健を中心にした現状や日本の役割について議論が行われます。また、会長特別企画として「東日本大震災から一年：現状と提言」と題して、震災後一年が経過した現状と今後に生かす提言をワークショップ形

学術講演会参加費優待

- ★ 医学生 無料
- ★ 初期研修医（非会員）..... 3,000円
- ★ 初期研修医（会員）..... 無料

※学生書、証明書をご提示ください。

2012年4月、春爛漫の神戸でお待ちしています。

